



SEMINAR REPORT

湖山医療福祉グループ

銀座の街を車いすで散策
「バリアフリー」を考える

●車いすによる銀座散歩

湖山医療福祉グループの湖山泰成代表は8月4日、パラマウントベッド株式会社の協力を得て、来春の新入職予定者とともに自ら「車いすによる銀座散歩」を行った。

湖山代表自身の“地元”である銀座の、車いす利用者にとっての「バリアフリー度」を知ることが目的としたもの。参加者からは「横断歩道では、道行く人はなかなか車いすに配慮してくれる様子がうかがえず、心細かった」「身障者への配慮もあって1階にトイレを設置する百貨店もあったが、女性用トイレの隣にあり、男性は入りにくかった」などの声が挙がった。

またサポートした側からは「石畳ばかりのパリなどに比べればかなりフラットでハード的には整っているという印象を持った。これは外国にもアピールできるのではないか」といった感想が聞かれた。

湖山代表は「健常者のなかには車いす利用者の存在に気づいている人もいたようだが、どう手助けしたらいいのか、わからない様子だった。東京五輪、パラリンピックが開催されれば、大勢の外国人が来るし、身障者も多いだろう。さりげなくサポートするための教育機会などを設けられたらいいのではないか」と振り返った。



「車いすの人が一人で散策するのはかなり心細いと思う」という意見が目立った